

埼玉学園大学・川口短期大学 機関リポジトリ

<Note> Impressions of 2016 NIRI Annual Conference

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 米山, 徹幸 メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/462

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



全米IR協会（NIRI）年次大会2016にみる「IRの最新動向」

Impressions of 2016 NIRI Annual Conference

米 山 徹 幸

YONEYAMA, Tetsuyuki

はじめに

2016年6月5日～8日の4日間、全米IR協会（NIRI）の年次大会が米西海岸サンディエゴ（カリフォルニア州）で開催され、米国の内外から約1,000人が参加した。NIRIは1969年に設立され¹⁾、IR担当者やIRコンサルタントなど約3,300人の会員を抱えるNPO（非営利団体）である。NIRIの年次大会はIR業界最大のイベントであり、その動向はIR活動の現在と今後を示すといっている。

本稿はNIRI年次大会2016を「ワークショップ」「全体セッション」「ラウンドテーブル」「分科会」「IRショーケース」の順に紹介し、注目を集めたテーマや議論を取り上げ報告する。

ワークショップ：「グローバル投資家」へのアクセスと対応

「ワークショップ」のセッションはIR資格取得のテーマや新たな知見を紹介する内容が盛り込まれ、5日と最終日の8日にそれぞれ4セッションが設定された。

5日は①「モデルの作り方を学び、これを正しく実行する」、②「コーポレートガバナンス、規則問題、アクティビズムを遠ざける

ために知っておくべきことを概観する～（パートⅠ）概観、（パートⅡ）アクティビズム～」、③「危険地帯をナビゲートする～変動する世界の危機管理の方法とレピュレーション・リスク～」、④「グローバルIRサミット」の4つである。

また最終日の8日も4セッションが設けられている。①「新しいIRC資格～IRCとは何か、なぜ取得するのか～」、②「IRにおけるビッグデータ分析～直近の学問的調査とそのIRへの意味」、③「決算発表シーズンに驚かないために～収益警告～」、④「難しい対話を乗り切る」の4ワークショップ。2日間で合計8つのワークショップが設けられた（【表1】参照）。

ここでは5日のワークショップから「コーポレートガバナンス、規則問題、アクティビズムを遠ざけるために知っておくべきこと」のパートⅡと「グローバルIRサミット」について報告しよう。

まず前者。タイトルはモノ申す株主の「アクティビズム」である。パネラーの議論は「コーポレートガバナンスの見地から見てアクティビズムを考える」をテーマとする内容であった。まずアクティビスト・ファンドの

キーワード：全米IR協会、NIRI、ロードショー、空売り、IR
Key words：NIRI, Roadshow, Sell Short, IR

【表1】NIRI年次大会2016年：「ワークショップ」の日程

○「ワークショップ」（6月5日）

	タイトル	テーマ
①	モデルの作り方を学び、これを正しく実行する	財務報告・分析 ビジネス知見
②	コーポレートガバナンス、規則問題、アクティビズムを遠ざけるために知っておくべきこと (パートⅠ) 概観 (パートⅡ) アクティビズム	IRプランニング 規制・法律順守 コーポレートガバナンス
③	危険地帯をナビゲートする 変動する世界の危機管理の方法とレピュテーション・リスク	IR戦略 IRプランニング 戦略法務
④	グローバルIRサミット (パートⅠ) グローバル投資家へのアクセス (パートⅡ) 投資家ターゲットをグローバルに	IRプランニング メッセージ開発 マーケティング 資本市場

○「ワークショップ」（6月8日）

①	新しいIRC（IR認証）資格 ～IRCとは何か、なぜ取得するのか～	IR戦略 IRプランニング メッセージ開発 マーケティング 財務報告・分析 ビジネス知見 戦略法務 資本市場 規制・法令順守 コーポレートガバナンス
②	IRにおけるビッグデータ分析 ～直近の学問的調査とそのIRへの意味	ビジネス知見 資本市場と資本構成
③	決算発表シーズボールンに驚かないために ～収益警告～	IRプランニング マーケティング
④	難しい対話を乗り切る	メッセージ開発

(NIRI年次大会2016年案内資料から作成)

エンゲージッド・キャピタルは、アクティビスとしての自社の行動パターンを「①各社のガバナンス・プロファイルを把握し、②企業の価値創造の戦略を用意し、③フィデリティやT&ロウ、インベスコなどの大手機関投資家からコンタクトがあり、アドバイスを求める展開となる」と説明。カンフェランス・ボードは「各社とももっとオープンな姿勢が求められる。アクティビストは詳細な企業分析を用意して事態に臨んでいる」、大手国際法律事務所のポール・ヘイスティングスは「エンロン、ワールドコム事件の教訓を忘れてはならない。コミュニケーションでは要を得た対応が求められる」とそれぞれコメント。大手

IRコンサルタントDFキングからは「株主構成の実態をもっと把握することが重要だ」との指摘があった。パネラーの発言ややり取りに多くの参加者が集中し、ベンが走った。

これに続く「グローバルIRサミット」は、もともと2010年に企画された「国際セッション」が始まりである²⁾。今回は初めてワークショップに組み込まれている。

そのパートⅠは「グローバル投資家へのアクセス」。進行役のIRコンサルティング大手ブルーシャツ・グループ（本社サンフランシスコ）の幹部が次のように切り出した。「投資家を欧州とアジアに大別して考えてみます。アジアでは東京や香港のほかには東南アジアに

大勢のファンドマネジャーがおり、アジアを1～2日で回るのは難しい。つまりCEO（最高経営責任者）やCFO（最高財務責任者）などマネジメントの時間管理に配慮が求められます。これは留意しておきたい点です」。そして「欧州の訪問では、自社や競合他社の株主リストを比較検討して訪問先リストを作成します。これは米国内の投資家訪問も同様で、訪問先ではニューヨーク、ボストン、サンフランシスコがリストの最初にきます。アジアでは政府系ファンド（SWF）を必ず訪問し、またオーストラリアの年金資金は規模が大きい」と続けた。

バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチの担当者も「海外ロードショーには、誰もが拠り所にするスタンダード・モデルがある。例えば欧州ならイギリスが中心となるといった具合に」と語り、「アジア・太平洋地域でのコーポレート・アクセスも証券営業の現場と共同してロードショーの準備を行う。ロードショーでの配布資料で翻訳上の問題はない」と付け加えた。

次いで、「ストーリーで何がポイントか」について、バリュー投資家として知られる米国のブランデスの担当者は「自社の業界が市場でそれほど人気がない場合は、①長期的な展望、②企業価値が割安となっていること—の2つを説明し、①と②が関連していなければ、投資に至るチャンスにつながることもある」とした。進行役が「ストーリーは地域で違いがあるのだろうか」と問うと、「アジアの投資家だからと言って違いがあるわけではない」とコメントした。

前出のバンク・オブ・アメリカ・メリルリンチの担当者は「ストーリーについてはアナリストも参加し、想定質問集も用意する」と

いう。そして「ロードショー後のフィードバック」に言及し、「欧州の投資家はフィードバックすることに躊躇する傾向がある。これをフォローするのがコーポレート・アクセスの仕事でもある」と語る。すると、会場から「ブローカーのコーポレート・アクセスではなく、各企業に直接フィードバックする傾向もある」との発言も出た。そして「ロードショーの費用」や「コーポレート・アクセスとバイサイド・アナリストとの関係」などについての質問が続いた。

最後にバンク・オブ・アメリカ・メリルリンチの担当者が「ロードショーの成功」は2つのことが大きく関連する」と語った。まず「初動の手順」。具体的には、株主のターゲティング（選定）と経営のスケジュールを確認した上で、個別訪問を担当する投資銀行／ブローカーのコーポレート・アクセスと打ち合わせを行い、自社の経営者とのミーティングをセットする。このプロセスである。次は「カンフェランス・コール（電話会議）」。これはロードショーの準備に関係する人たちと情報共有するベストの方法だという。会場で多くの出席者がうなずいた。

パートⅡは、ITサービスでインド最大手タタ・コンサルタンシー・サービス（以下タタと略記）、ブラジルの食品大手JBS、スペインのビルバオ・ビスカヤ・アルヘンタリア銀行（BBVA）、米国の物流大手フェデックスなど各国のIRO（IR責任者）がパネラーとして登場した。テーマは「投資家ターゲットをグローバルに」で、進行役は米大手銀行BONYメロンのADR（米預託証書）担当者がつとめた。

パネラーが自己紹介の中で、それぞれ自社の外国人株主の比率に言及した。タタはアジ

ア、英国、米国、欧州がそれぞれ20%で、外国人比率は80%。香港とシンガポールの大手ファンドも株主だといひ、ニューヨークはボストンからカバー。JBSは70%の株主が海外で、年1回はアジア・中東に出かけ、欧州や北米への訪問頻度も高い。株主と同様、債券の保有者に対してもケアしている。BBVAは南米を中心に大きな株主層が形成されており、IRチームはニューヨークで米国と南米、マドリッドが欧州とアジアを担当。フェデックスはIRチームがローテーション・システムのもと、東京・香港・豪州の担当と南米担当、欧州担当の3グループで動いている、と語った。

進行役が「外国人投資家に地域差はあるか」と質問を發した。これに対して「母国市場ではニュースが小さく継続的に出ることもあり、投資家は短期志向。米国ではメディアがフレンドリーな対応をしていることもあり、長期的だ」（タタ）。「米国と欧州での違いといえば、欧州はコーポレートガバナンス、アジアではリレーションシップ、米国はリターン・オブ・キャピタル（Return of capital = ROC）と短期的。カナダには債券の大手保有者といった点でしょうか」（JBS）、「欧州は長期的でアジアは短期的な投資家。長期的な投資家には2つのタイプが混在するので事前の準備が重要。豪州は緻密な議論となりがちなので十分な準備が求められる」（フェデックス）。「株主の構築には時間をかけている。ニューヨークやボストンの投資家には自社のベシックを中心に議論を行い、カナダのトロントの投資家に向けてはストーリーを重視している。ミーティングではネガティブ情報をめぐる話になることも稀ではない」（BBVA）。

これに関連して「投資家情報をどのように

作成するのか」が議論になった。ここでは「大事なことは誰がターゲットの投資家なのかという点である」（BBVA）、「ブローカー経由の情報もあるが、その情報は既存の株主が中心になりかねない。もっと重要なのは潜在的な投資家についての情報である。もっというなら潜在的な投資資金についての情報である」（フェデックス）と、それぞれ経験に裏打ちされたコメントが続いた。

会場から、「取引時間が1日/24時間に拡大し、取引は1つの国にとどまりません。みなさんの企業では、IR担当者も複数の国に駐在しているのでしょうか」という質問が出た。これに対して「毎日の売買もあり、(2008年まで) ニューヨークにIRのオフィスがあった」（タタ）、「ダラスやシカゴ、西海岸」（JBS）、「ニューヨークのIRオフィスは広い地域をカバーしている。外国人株主は全体の20%で、18%は米国です。ニューヨークのIRオフィスには投資家のフィードバックや質問が多く、これがIRオフィスのベネフィットである」（BBVA）、「本国（one location）に集中し、社内情報を集約」（フェデックス）と各社各様の対応が示された。

また「株式購入とロードショーの相互関係」についての質問も出た。「ブローカーのセールスによるチェック」（JBS）、「株主の購入動向を追うのは簡単。SEC（米証券取引委員会）への届出書類で判明する。これは英国でも同様。ストック・ウォッチは業務の1つである」（フェデックス）と、それぞれの対応が示された。

最後の「ノルウェーやデンマークなど北欧の投資家についてはどうか」という質問に、パネラーが、まだまだ話し足りない調子で語る。「ランチョン・ミーティングやスモール・

ミーティングと個別面談で語るトピックは分けて用意したほうがいい」（タタ）、「中東の投資家は大手投資家です。株主構成の分散化の点からいって、スカンジナビアにはビジネス・チャンスがある」（JBS）、「シティ（ロンドンの金融街）からのフィードバックはとても役に立つ」（BBVA）、「さきほどストーリーの話がでていたが、最初の年のストーリー、2年目・3年目のストーリーとストーリーにも戦略性を考慮しておかなければいけない」（フェデックス）と具体的な話が続き、終わった時間は予定を大きく過ぎていた。

サンディエゴは米海軍基地の街である。港に停泊する空母ミッドウェイはいま博物館となり、会場のホテルから歩いて数分。6月5日の夜、ニューヨーク証券取引所などによるナイト・パーティは空母ミッドウェイが舞台で、夜空に花火も打ち上げられ、盛大に行われた。参加した各社のIR担当者やIRコンサルタント、IR支援サービスの人たちの話が弾んだのは言うまでもない。

全体セッション：ブルームバーグ編集長が語る「世界とメディア」

6月5日～8日までの年次大会は「全体セッション」と「分科会」が大会プログラムの大きな柱である。6日の「全体セッション」の冒頭で、ジェイムス・M・カダフィ理事長

&CEOは、この1年を振り返り、前回の年次大会（シカゴ市）でIRC（IR資格認証）制度の実施スケジュールを説明したとおり、16年3月に試験を行い、4月に61人のIRC合格者が初めて認定されたと報告した³⁾。

「全体セッション」の内容を見ると、「いま金融市場が語ってくること」、「炉辺談話：ブルームバーグ編集長との対話」、「ストーリーを語る～自社と投資家に向けたベター・ストーリーの作成する方法～」、「経営幹部への道を固める～その道を歩むためにIROが知っていききたいこと～」、「ウォールストリートのFBI」と5つのセッションが用意されている。それぞれIR関係者の大きな関心にこたえるトピックである。

その中でも、「炉辺談話：ブルームバーグ編集長との対話」は、ジョン・ミクルスウェイト編集長が4月25日付の自分のコラムで「この20年あまり、毎年8月に20ポンドを投じてレスターのリーグ優勝に賭けてきたが、昨年の夏、ニューヨークのブルームバーグ本社勤務で引っ越しがあり、いつもの賭けを失念してしまった」、「その結果、20ポンドを節約したと思っていたのだが～」と書いて⁴⁾、この頃、大きな話題となっていた⁵⁾。

というのも、昨年のシーズンの開幕日にレスターがプレミアリーグで優勝するとの賭けのオッズは5000対1で、もし買っていたら、

【表2】2016年NIRI年次大会：全体セッション

○6月6日（月）	
8：30～9：30	いま金融市場が語ってくること
9：45～11：15	炉辺談話：ブルームバーグ編集長との対話
○6月7日（火）	
8：20～9：50	ストーリーを語る～自社と投資家に向けたベター・ストーリーの作成する方法～
9：50～10：45	経営幹部への道を固める～その道を歩むためにIROが知っていききたいこと～
○6月8日（水）	
8：00～9：00	ウォールストリートのFBI

（2016年NIRI年次大会資料から作成）

10万ポンドが手に入っていたからだ。この日のインタビューもこの話題から始まった。

「そうなんです。10万ポンドを儲けそこなったのです。労働党のジェレミー・コーエン党首が英首相になるかを扱った賭けのオッズも同じぐらいでしょう」と軽く受け流した。

そして、6月23日に予定される英国のEU離脱をめぐる国民投票について、「EU離脱での議論にみられるようにファンダメンタルな変化が生まれていると思う。2014年のスコットランド独立住民投票で賛否が肉薄した例もある。今回の国民投票でドマラティックな結果となれば、この先オランダなどベネルクスの国々に大きな影響があるだろう。投票予想ではEU残留に賛成は高年齢層で40%、若年層60%。年齢によって大きな差がある。これを見逃してはいけない」と指摘した。

「サウジアラビアのアラムコによる史上最大の2兆ドル規模の株式公開上場（IPO）が予定されている。これは、サウジの政権が①石油代金以外の収入、②株式会社タイプの組織一に着目していることを示す。IPOは情報やガバナンスの透明性が要請されるものであり、それは既存の社会体制とは対極にある。それだけに、潜在的に対立が生まれかねない可能性がある」

「メディアの仕事は以前よりもっとハードになっている。IRでいうと、これまでのようにウォールストリートを訪問するといったカジュアル・ルーティンから投資家やアナリストとの対応はもちろん、アクティビスト投資家向けの対応も瞬時に行うクイック・インターベンションが求められている。ウォールストリートでジャーナリズムは、いわゆるニュースに加えて、データ自体の記事が求められており、しかもマトリックス・データが

必要である。IRはウォールストリートだけでなく個人投資家に理解してもらう側面も少なくない」。

「ジャーナリズムも変化している。ペーパーからラップトップに変化したと思っていたら、いまはツイッターに移ってしまった。次は、これまでのニュース発信のスタイルから事前に受け手が選んだキーワードなどに従ったニュースを届けるスタイルに移るだろう」。

「①急速なモバイル移行、②電話、タブレット、コンピュータのカスタマーゼイション（顧客仕様化）、③顧客の支払い能力の問題。トップ・ジャーナリズムに対しても年間500ドル（約5万円）が上限と見られ、限られたものだけが生き残る」。

最後に財務報告に言及し、「ネッスルやユニリーバーなどは四半期報告は不要だと言っている。たしかに、経営者の時間を奪っている。四半期報告書は専門家向けのものだ」といって、インタビューを締めくくった。

6日のディナー講演についても報告しておこう。招かれたスピーカーは米艦上戦闘機F-14（通称、トムキャット）の女性初のパイロット、キャリー・ローレンツ。話はリーダーシップ、チームワークに始まり、時速320キロの瞬時に判断を迫られるプレッシャーの中で生き抜くポイントを説得力に満ちた口調で語る。ディナー会場を埋めたIR担当者も、さすがに映画「トップガン」の舞台となったサンディエゴにふさわしい内容だと大いに納得した表情だった。

分科会：「ショート・アタック（空売り攻撃）」に集まる関心

NIRI年次大会のプログラムのもう1つの大きな柱は「分科会」である。これはIR活動が

直面するテーマに沿ったプログラムで2日間にわたり、参加者が自分で選んで好きなセッションに出向く仕組みである。「分科会」には2つのタイプがある。1つは業種別とトピックのラウンドテーブルである。

ラウンドテーブルには「業種別」と「IR活動のトピック」の2つのセッションがある。「業種別」では、「公共関連&電力」「資源抽出：鉱業、石油、ガス、金属」「建築資材&建設」「通信」「テクノロジー：インターネット&ソフトウェア」「テクノロジー：半導体&ハードウェア」「金融サービス&銀行」「保険」「医療テクノロジー&機器」「流通/消費関連商品」「ヘルスケア/薬品」の13グループが用意され、同業種のIR担当者がお互いに交流する機会となる。

もう1つの「IR活動のトピック」は「IRの効果測定：定量vs定性」「マーケット・インテリジェンス」「企業の社会的責任」「アニュアルレポート」「アクティビスト投資家」「投資家マーケティング/ロードショー」「ネット投資家の空売り」など13のIRテーマに沿ったグループ討論である。

どちらのラウンドテーブルも、互いの課題やアナリスト、市場の評価などについて意見を交わす。同じ業界で長年にわたりIR業務を担当する人たちの集まりだけに、議論は形式に流れず、その中身は濃い。

もう1つはテーマ別の分科会で、大会の期間中にそれぞれ2～7回のセッション・プログラムがある（【表3】参照）。具体的には「キャリア・マネジメント」（2セッション、以下同じ）、「経済&マーケット」（5）、「規制&コンプライアンス+コーポレートガバナンス」（5）、「IRマーケティング/アウトリーチ」（3）、「IR支援会社：ソート・リーダーシップ」

（4）など、全体で19セッションが用意された。どのセッションもNIRI会員がパネラーや進行役を務める。これに6月8日の4つのセッションを加えると23セッションに達する。

年次大会の分科会では、この数年の定番ともいえるアクティビスト（モノ言う投資家）やコーポレートガバナンス、ソーシャルメディアなどの進展に加え、新たに「サイバー・セキュリティーズ」や「IR分野のビッグデータ分析」も取り上げられた。

その中でも6日午後の「ショート・アタック（空売り攻撃）：新たなウォルフ・パック：ショート・アタックに備え、身を守るベストプラクティス」は、ひときわ多くのIR担当者の関心を集めた。一般に知られる株式投資は市場の株式を購入し、その株価が値上がりした時点で売却する。ここでいうショートとは「ショート・セリング＝空売り」のことで、投資家が株式を借りて売却し、その株が値下がりした時点で買い戻して利益を得る株式投資手法である。壇上のパネラーにショート・アタックの標的となった企業のIR担当者が並んだ。

パネラーとなった金融サービス会社、アムトラスト・ファイナンシャル・サービス（ナスダック・グローバル・マーケット上場）の広報・IR担当エリザベス・マローンが「いまや空売りのエキスパートです」と語り始めると、そのショート・アタックの詳細に、会場はまるで吸い込まれるように聞き入った。

「まず、当社の場合、株主構成が閉鎖的で、州政府や連邦政府による強い業界規制があり、同業他社よりも高い株価、40回を超す企業買収—といった点が、空売りの標的になる要因のように思います。次に、空売りを仕掛けるヘッジファンドなどは、アクセス可能なプリ

ント・メディアやソーシャルメディアから情報を渉猟し、そのコンタクト・リストを見ると、規制当局、格付け機関や証券アナリストをはじめ、株主や顧客、いろんな利害関係者、退職した社員、現職の社員の名前が挙がっています。情報収集が自らの影響力を高めることにつながります。そして3番目に、彼らは株式市場の動向をチェックして、ショート・アタックの可能性を探り、その戦略を練り、行動プランを用意するというわけです」。

ネット上のニュースに仮名や匿名でコメントされているブログやツイッターの書き込みも、たとえ根拠がなくてもショート・アタックの要因になるかもしれない、という。たとえば空売り投資家が唱える議論や指摘に応じて、株価に驚くほど大きな影響も出かねない。

ネット情報がそんな重大な結果を招きかねない時代だと指摘する。「とくに情報開示が見劣りする場合は、1つひとつの空売りはわずかでも、まとまると大きな勢いを得て、経営にとって脅威になることは少なくない」というのである。では、こうしたショート・アタックに対抗するにはどうすればいいのだろうか。

マローンが続ける。「まず、株主や顧客、それに従業員や関連する取引先とコミュニケーションをとることが最大の防護策です。もちろん株式買戻しや、空売りに回りかねない株式を抑えるとか、そして新たな株主を探すことも大事です」。

企業のIR担当者にとって、空売り投資家は自社の株主に大きな影響力を持ちかねないが、通常の株主とは異なるだけに、その行動パ

【表3】2016NIRI年次大会：分科会の各セッション （ ）内は開催月日

○分科会のテーマ	セッション・タイトル
キャリア・マネジメント	・いまや止まらない：多くの専門領域にまたがるIR担当者（6/6）
	・あなたの履歴書は何年ものか。注目を引き付ける履歴書を作成する（6/7）
	・トップガンIR：キャリアを次のレベルに向けて（6/7）
経済&マーケット	・スピードを求めるニーズ：もう1つの取引所は必要か。（6/6）
	・24時間ニュースサイクル：ニュース速報の競争に勝つ（6/6）
	・ショート・アタック（空売り攻撃）：新たなウォルフ・バック：ショート・アタックに備え、身を守るベストプラクティス（6/6）
	・離陸から着陸まで：資本市場へのアクセス（6/7）
	・投資家の認識に関連するマクロエコノミーのトレンドを理解する（6/7）
規制&コンプライアンス＋コーポレートガバナンス	・取締役、アクティビスト、取締役会のIR（6/6）
	・セルサイド調査：ウォールストリートとゲームなしのセルサイド・コンタクト（6/6）
	・議決権行使の傷跡：善玉、悪玉、卑劣漢による議決権行使の闘争から（6/6）
	・エンゲージメント・ルールが変わった。あなたと貴社の取締役会は準備ができていますか（6/7）
	・サイバー・セキュリティーズ：IR担当者として知っておくべきこと（6/7）
IRマーケティング／アウトリーチ	・バック・シートかフロントシートか。ウォールストリートのディーラーでIRは重要な役割をどのように果たすか（6/7）
	・会社の時価総額を問わず二分化するIR（6/7）
IR支援会社：ソート・リダーシップ	・ビジネスワイヤ：ソーシャルメディア、IRにとっての明暗（6/7）
	・コービン・パーセプション：向上に向けた教育。業界トップの投資家向けプレゼンに向けたベストプラクティスとすぐできる戦略（6/7）
	・アイブレイク：コーポレートガバナンスとIR。社内コミュニケーションとバイサイド対応のベストプラクティス（6/7）
	・ライベル：ターゲティング。自社のコーポレート・コミュニケーション・プログラムは並みのプラクティスか、ベストのプラクティスか（6/7）

（2016年NIRI年次大会資料から作成）

ターンを知るチャンスは限られる。分科会が終わると、もっと話を聞こうとマローンを囲む大勢の人ばかりができたのも当然だった。

IR支援業者の「IRショーケース」

直近の証券市場を駆け巡る企業情報の動向を知るとき頼りになるのがIRインテリジェンスの支援会社である。年次大会の期間中、「IRショーケース」の会場には、IRビジネスに関連する企業や金融メディア、大手金融機関、取引所、大学、ホテルなど54社が出展ブースに名前を連ねた。

会場の中央を大きく占めたのは企業のプレスリリース配信大手ビジネスワイヤ、市場情報インテリジェンス大手のIPREO、有力IR関連調査会社のライベル・リサーチ、IR&市場関連情報大手S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス、ウェブサイト・コンサルティング大手Q4、2012年にトムソン・ロイターからIR事業を買収したナスダックOMXグループの6社である。会場のコーナーには市場情報大手ブルームバーグ、企業のプレスリリース配信大手のPRニュースワイヤが大きなブースを用意し、NYSEや証券印刷業者大手RRドネリのブースも並んだ。

このようなブースを1つひとつ訪れ、IR関連の最新インテリジェント・プロダクトに目を通し、各社の担当者の話に耳を傾ける。IR業界の商材動向やIRビジネスの動向も一目瞭然である。

次のNIRI年次大会は2017年6月4日～7日、フロリダ州オーランドで開催される予定である。

〈注〉

- 1) 米山徹幸 「IR（投資家向け広報）の始まりと、その後の進展—全米IR協会（NIRI）／国際IR連盟（IIRF）／グローバルIRネットワーク（GIRN）—」（証券経済研究第77号 2012年3月）
- 2) Ibid,
- 3) 米山徹幸 「トンプソン後のNIRI（全米IR協会）の進展」（証券経済研究第94号 2016年6月）
- 4) John Micklethwait “Leicester City: Dirty Dozen or Harvard Case Study?” April 25, 2016
<https://www.bloomberg.com/view/articles/2016-04-26/leicester-city-dirty-dozen-or-harvard-case-study>
- 5) Jackie Wattles “Monday had to be a bittersweet day for Bloomberg News editor-in-chief John Micklethwait.” May 2, 2016
<http://money.cnn.com/2016/05/02/media/leicester-soccer-bet/>